試験研究評価シート（事前）

評価の種類	事　前　評　価	担当名	水質環境担当
課 題 名 (研究テーマ)	公共用水域における植物プランクトンの分布状況について	研究者名	（正）鷹取　知宏 （副）上岡　新
研究期間	令和７～９年度		
予算額 （千円）	令和7年度：505千円 令和8年度：505千円 令和9年度：505千円	予算種類	国補　・　県単
必　要　性	瀬戸内海の水質は、過去と比較すると一定程度改善したものの、海域によっては栄養塩類の減少を始め、養殖ワカメ、ノリの色落ち被害や漁獲量の減少等の新たな問題が生じている。 徳島県では、きれいで豊かな「とくしまのＳＡＴＯＵＭＩ」の実現に向けて「瀬戸内海の環境の保全に関する徳島県計画」を作成し、施策を実施しているところである。 水域の栄養塩類等は植物プランクトンや藻類等に吸収され、食物連鎖により動物プランクトン、魚類等へとつながっていく。水域での生態系を語る上で、プランクトンは非常に重要な役割をもつが、近年県内のプランクトンに着目した研究は少ない。 当センターでも、過去に調査した資料はあるものの、前回の調査から相当の期間が経過している(前回調査 昭和59年～63年)。 この間、人口減少や産業形態の変化、気候変動等、徳島県を取り巻く環境は大きく変化するとともに、水質総量削減計画等により、陸域からの窒素・りんの排出量は減少しており、水域のプランクトンの分布に影響を与えている可能性がある。 このことから、改めて水域の植物プランクトンの調査を行い、水質データ等との相関の知見を得ることは、今後の施策を検討する上で、非常に重要であると考える。		
目　　標	県内沿岸海域における植物プランクトンの分布状況を調査し、水質データ等との相関及び植物プランクトンの変動傾向を把握する。さらに、必要に応じてその要因を探索することで、今後の施策のための基礎資料とする。		
研究内容	１　県内沿岸海域において、地点を定めて定期的に植物プランクトンの採取及び同定を行い、植物プランクトンの分布状況及び年間推移を把握する。 ２　並行して、海水の栄養塩類等の分析を行い、植物プラントンの分布状況と水質データ等の相関を調査することで、植物プランクトンの変動傾向を把握する。		
手　　法	○調査地点 県北沿岸海域、紀伊水道海域、県南沿岸海域　各１地点 ○調査回数 年４回（春・夏・秋・冬期　各１回） ○調査内容 ・植物プランクトンの同定を行う。 ・植物プランクトンの種属ごとに個体数(細胞数)を把握する。 ・海水の分析を行い、植物プランクトンと水質データ等との相関を調査する。 【調査項目】 pH、DO、COD、栄養塩類、全窒素、全りん、気温、水温等		
そ の 他	【参考】 瀬戸内海環境保全特別措置法 瀬戸内海の環境の保全に関する徳島県計画		